



- 1 臓器移植コーディネーターの現状
- 2 提供家族ケアの取り組み

事業推進本部長
メディカル・コーディネーター
林 昇甫 MD

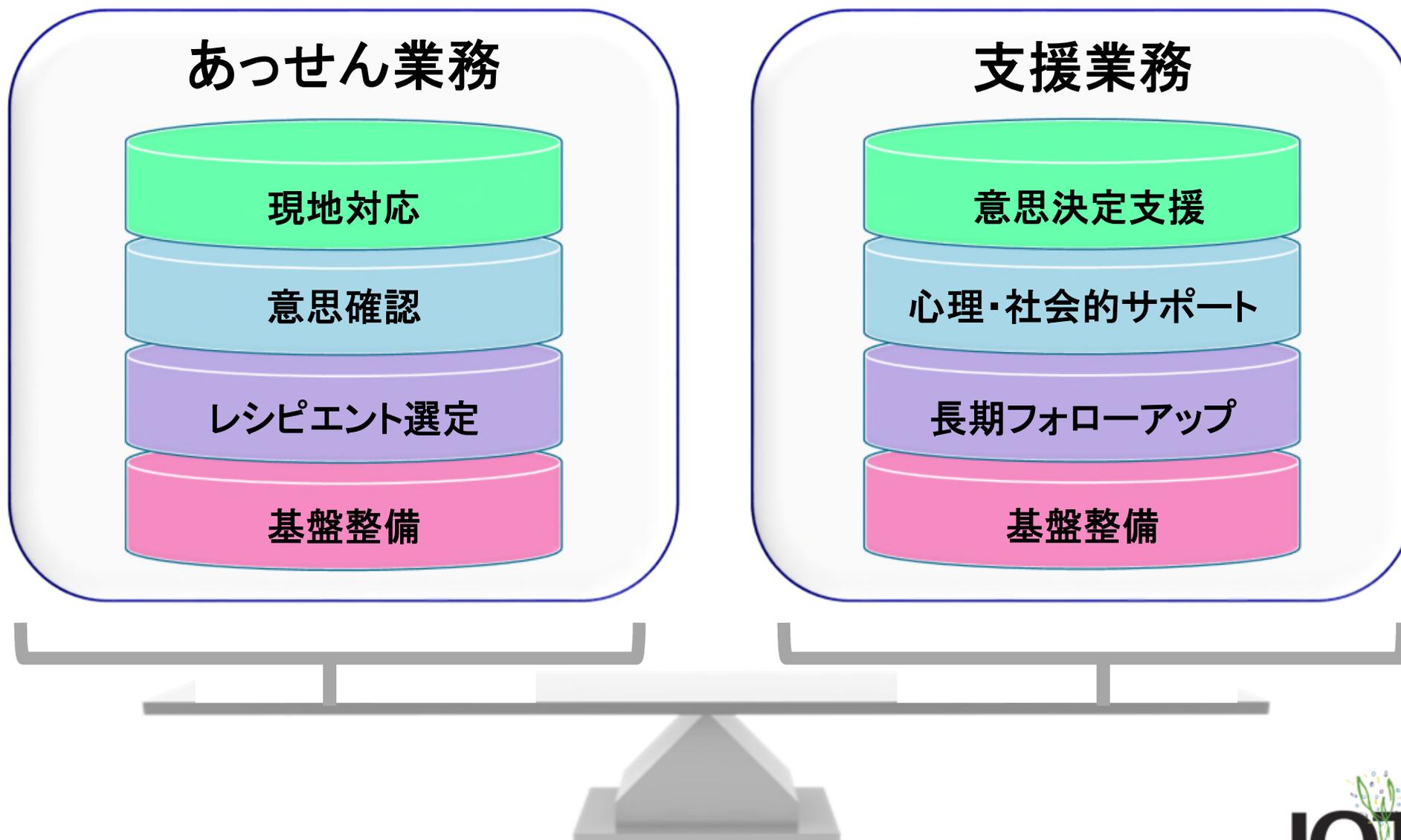


1 臓器移植コーディネーターの現状

2 提供家族ケアの取り組み



JOTコーディネーターの主な業務





業務根拠

法律

臓器移植法

「臓器の移植に関する法律」

- ・臓器移植法(法律)
- ・施行規則(省令)
- ・運用に関する指針(局長通知)
- ・運用指針の細則(室長通知)
- ・ドナー適応基準
- ・レシピエント適応基準
- ・レシピエント選択基準
- ・脳死判定基準
- ・臓器摘出手術の管理規則
- ・移植希望患者の登録更新業務基準
- ・血清保存管理輸送業務基準
- ・選定システム(EVAS)管理基準 等

省令

施行規則

(厚生労働省令)

通知

運用に関する指針

(ガイドライン、局長通知)

運用指針の細則

(室長通知)

倫理

倫理4原則

- ・自律尊重原則
- ・善行原則
- ・無危害原則
- ・公平原則

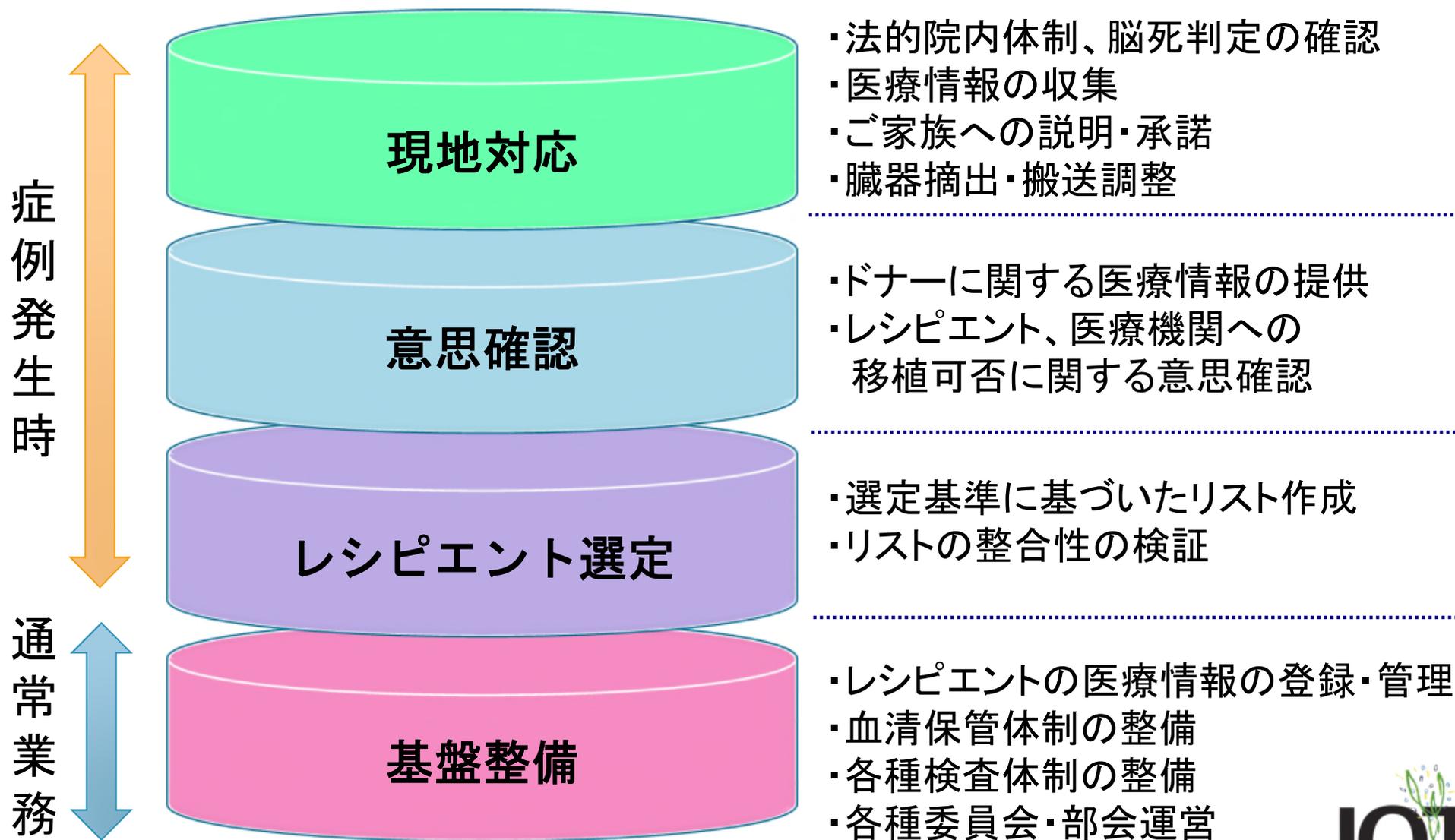
- ・医療倫理原則と業務行動の整合性
- ・グリーフケア
- ・ビリーブメントケア
- ・家族面談技法
- ・意思決定支援方針の立案
- ・意思決定プロセスの分析
- ・コミュニケーション技術
- ・他職種との協働
- ・多様な社会的資源(機関)との協働
- ・看取りの支援
- ・ドナー家族の意識調査の分析

あっせん業務
のエビデンス

支援業務
のエビデンス



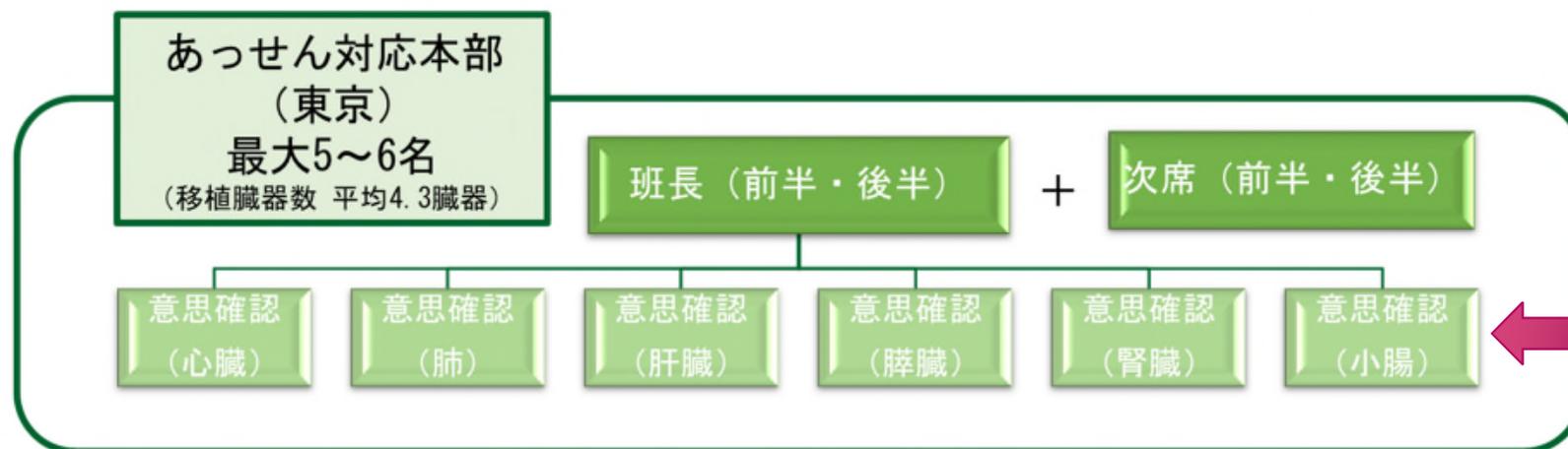
あっせん業務の概要



脳死下臓器提供1事例における コーディネーション体制

1事例につき、約10名のコーディネーター及びコーディネート・アシスタントがチームとなって対応

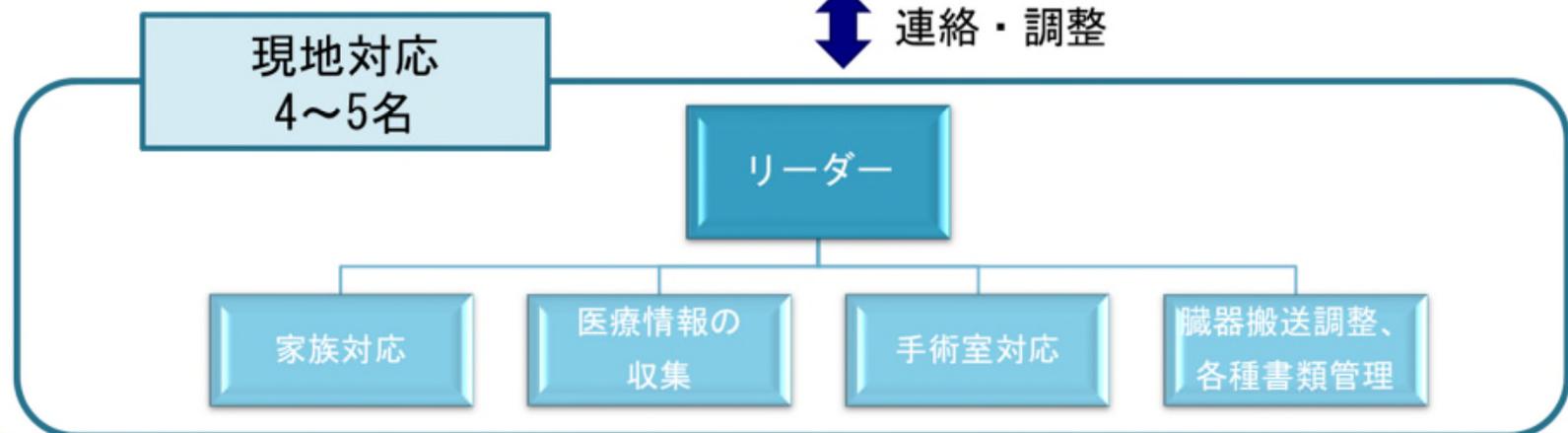
あっせん体制（1事例、1班設置）



レシピエントの
移植可否連絡
コーディネーターに加え、
1事例につき2名の
コーディネート・アシ
スタント※が対応

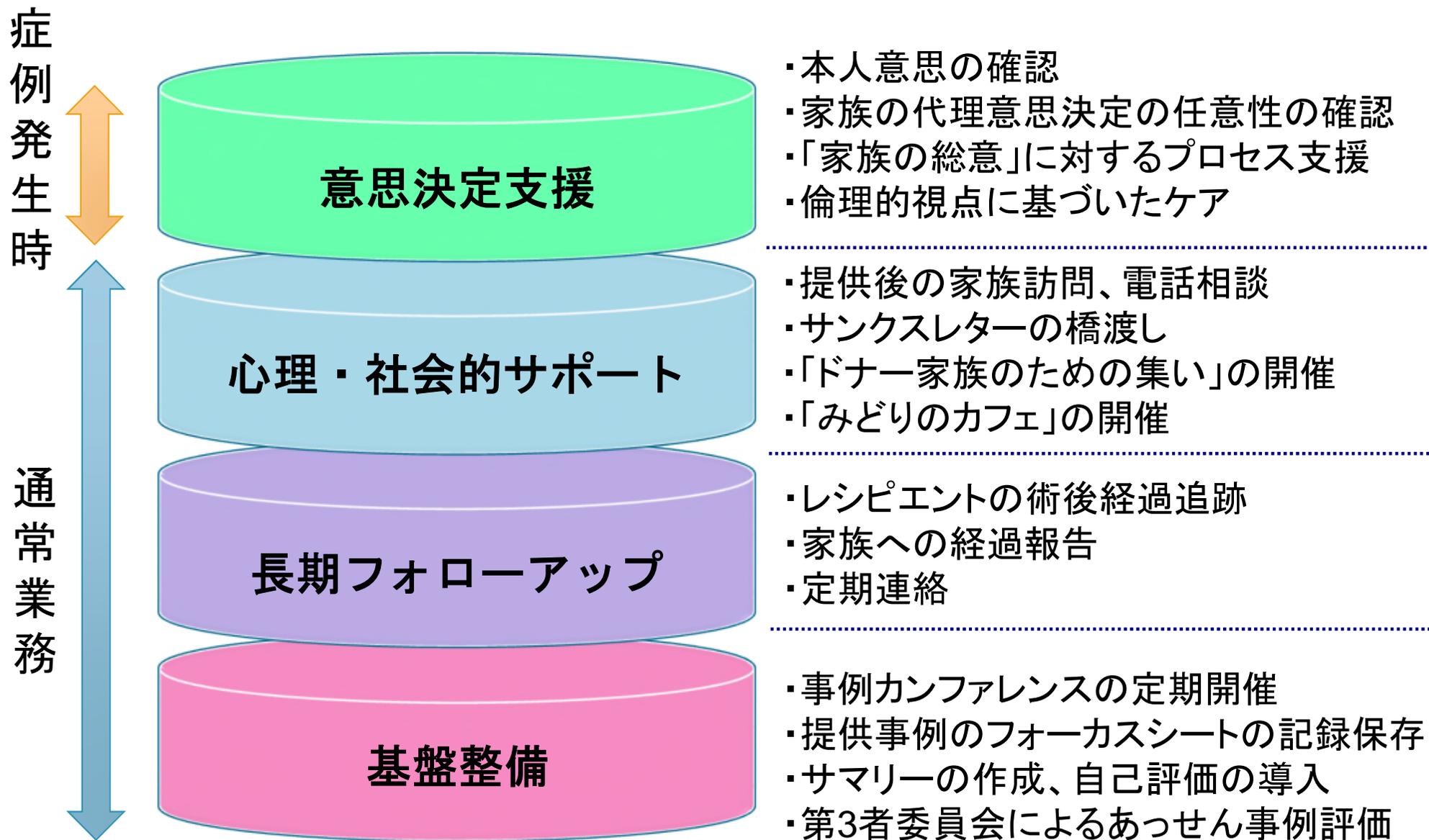
※コーディネート・アシスタント
あっせん業務の補助する役割
(令和元年より設置)

↑ ↓ 連絡・調整

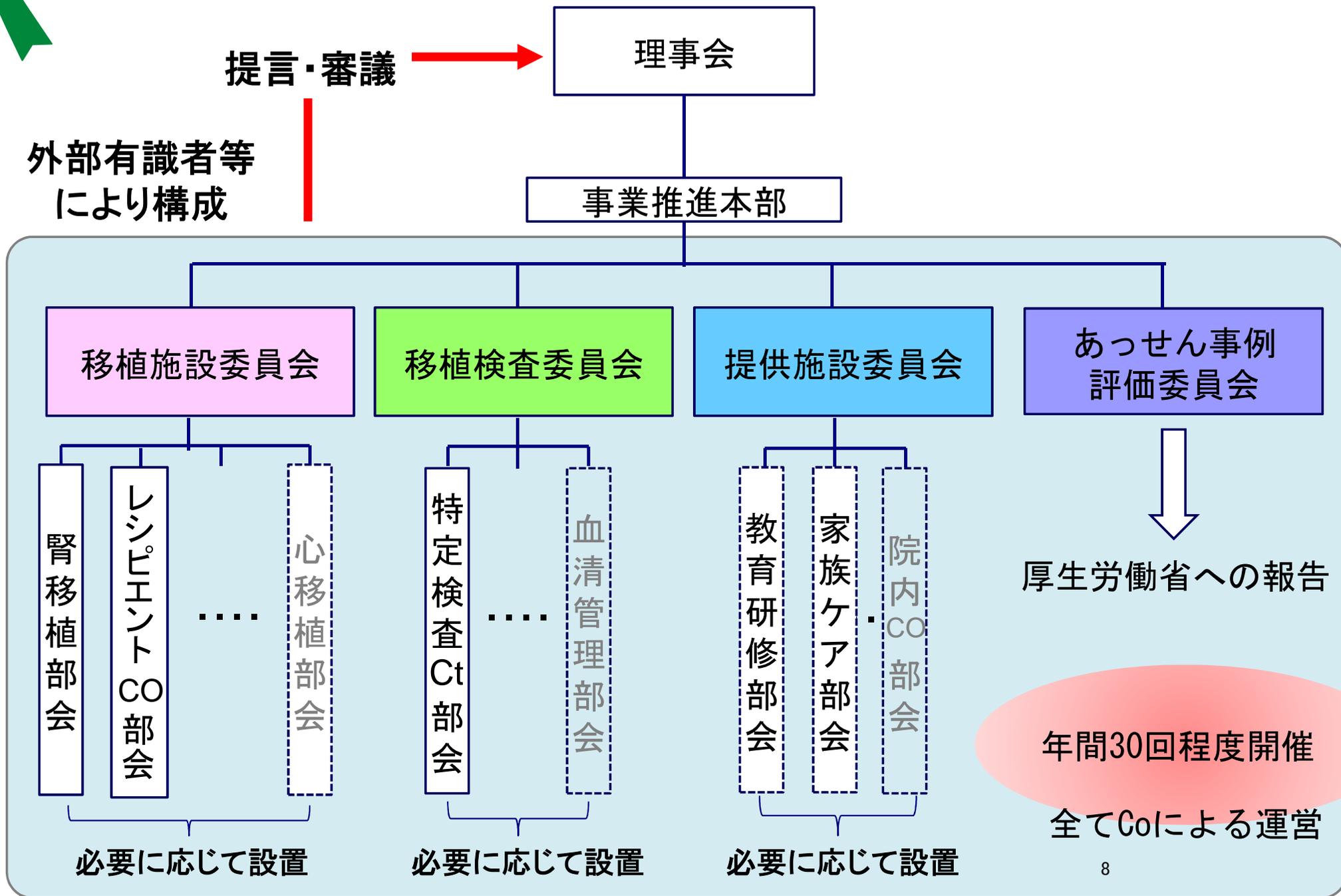




支援業務の概要



現場の声を反映した体制整備





臓器移植対策事業の運営業務

あっせん事業体制整備事業

- ① (ア) 都道府県内活動事業
(イ) 都道府県内研修事業
(ウ) 院内体制整備支援事業
- ② 臓器提供施設連携体制構築事業
- ③ 臓器提供意思登録システム
- ④ コーディネーター研修
- ⑤ 提供施設技術者研修
- ⑥ ドナー家族に対する心理的ケア
- ⑦ 家族支援基盤強化事業



(事業運営・支援業務)

- ・ 企画立案
- ・ 公募、相談対応
- ・ 審査、検証作業
- ・ 要望支援
- ・ 病院訪問
- ・ 教育機関訪問
- ・ 講義
- ・ シミュレーション支援
- ・ 事例振り返り支援 等

(渉外業務)

- ・ JAL/ANA等航空関連調整業務
- ・ ITシステム開発
- ・ 画像転送システム開発
- ・ ロジスティックシステム開発
- ・ その他、渉外調整業務 等

(調査研究開発業務)

- ・ 遺族調査
- ・ 国会報告データ作成
- ・ 各種委員会報告
- ・ 疫学DB管理 等



移植コーディネーターの人員分布

国家医療資格を保持している移植コーディネーターは、全体の約80%

2021年6月1日現在

国家医療資格の有無	看護師	検査技師・薬剤師・工学 技士等	なし (4年制大学卒以上他)
JOTCo (N=35)	24	6	5
都道府県Co (N=59)	37	10	12
総数 (N=94)	61 (64.9%)	16 (17.0%)	17 (18.1%)



JOT CO.の業務量調査

調査目的：ドナー一件数に適したJOTコーディネーター指標の検討

調査対象：JOT所属・全コーディネーター

調査期間：2017年7月1日～31日、31日間

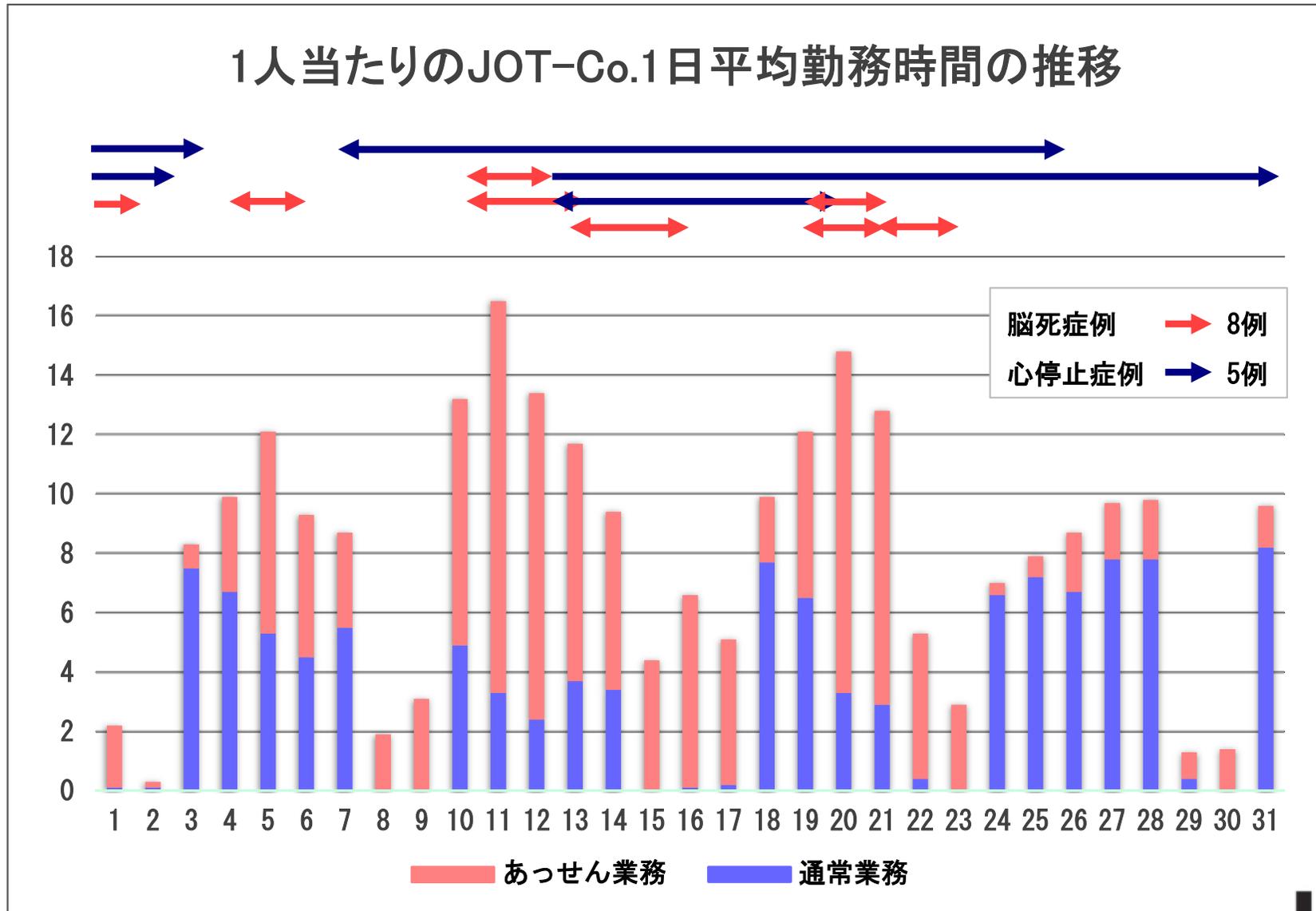
調査方法：個別・業務別勤務時間の自記式記録

【結果】

有効回答	: 26名（新人4名を除く）
期間中発生事例	: 脳死症例 8例、心停止症例 5例
あっせん事例対応総時間	: 3538.5 hr（平均 136.1 hr /人）
通常業務総時間	: 2941.5 hr（平均 113.1 hr /人）
全業務総時間	: 6480.0 hr（平均 249.2 hr /人）
1 あっせん事例対応時間	: 272.2 hr



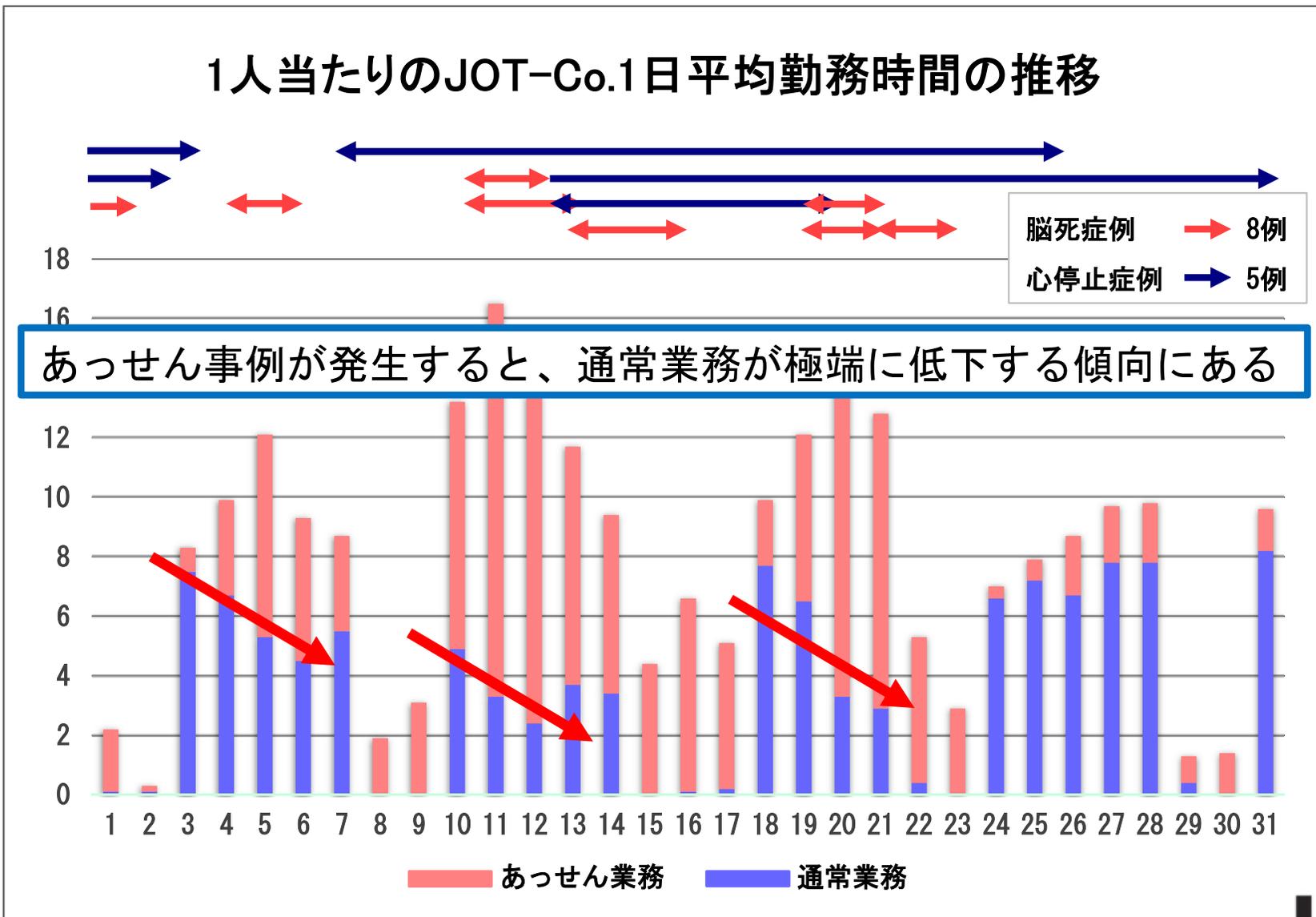
JOT CO.の業務量調査・結果





JOT CO.の業務量調査・結果

1人当たりのJOT-Co.1日平均勤務時間の推移





適正JOT-CO.指標の算出

【本指標の基本原則】

- ・ 年間ドナー件数あたりに必要なコーディネーターの推計指数とする
- ・ あっせん業務の有無に関わらず、コーディネーター1名当たりの勤務時間として、1日8時間を限度に設定
- ・ あっせん業務の増減による通常業務量の変動は現体制下の実測値で補正
- ・ あっせん業務の効率化、事務員や情報管理者等の補助要員増員による未来の業務量軽減因子は加味しない

【適正Co. 指標】

$$\underbrace{([\text{ドナー件数}] \times 0.156)}_{\text{あっせん業務必要人数}} + \underbrace{([\text{ドナー件数}] \times 0.156) \times 1.429}_{\text{通常業務必要人数}}$$

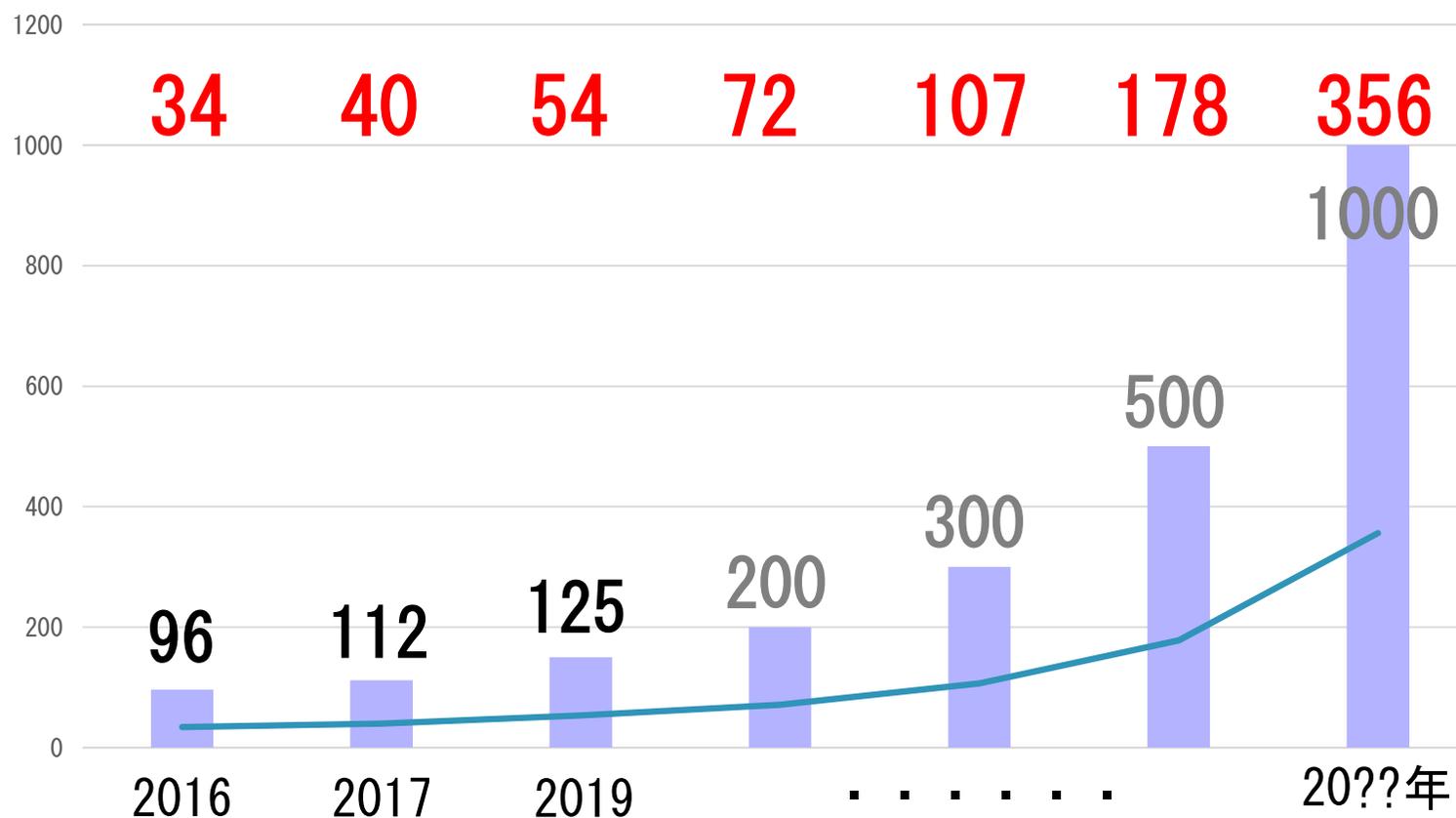
$$[\text{ドナー件数}] \times 0.356$$



提供件数の増加に伴う コーディネーターの推計必要人数

【適正Co. 指標】 [ドナー件数] × 0.356

ドナー件数の増加に伴うコーディネーターの推計必要人数





業務改善に向けた取り組み

質の維持・向上

JOT組織再編成

- ・意思決定プロセスの明確化
- ・事業間連携の効率化
- ・Co.のローテーション勤務体制の導入

各種委員会・部会の設置

- ・専門的知見の強化
- ・第三者による評価
- ・執行部への意見反映 等

CTOの設置※coordination technical office

- ・業務内容の見直し
- ・記録方式の大幅変更
- ・学問体系の構築(倫理学の導入等)
- ・教育研修制度の見直し 等

家族支援センターの設置(予定)

- ・支援業務の効率化
- ・専任臨床心理士(2名)の配置
- ・専門的心理サポートの実践と医療機関連携

業務量の軽減

人員拡充施策

- ・Co.採用時期の拡充(4月+秋入社)

業務削減施策

- ・臓器搬送業務の外部委託
- ・コーディネーション
アシスタント制度の導入
- ・医療情報管理者の拡充
- ・各種検査業務の効率化
- ・血清管理業務の集約化

その他

- ・労働基準監督署による指導/助言
→ 労働条件等の見直し等



1 臓器移植コーディネーターの現状

2 提供家族ケアの取り組み



これまでの家族ケアに関する取組みと課題

家族ケアに相当すると思われる支援業務体制



レシピエントの
経過報告

サンクスレター
受け渡し

ドナーファミリー
の集い

ドナーファミリー
専用ダイアル
・ E-M a i l

課題

課題

課題

課題

- ・ 報告時期の多様化
- ・ 移植施設との連携
- ・ ケアサポートの実践

- ・ 比率の向上
- ・ 普及啓発
- ・ ドナーへの影響

- ・ 目的、意義の再考
- ・ DF多様性への対応
- ・ 地域性への対応

- ・ 利用率の改善
- ・ 普及啓発
- ・ 次への展開策

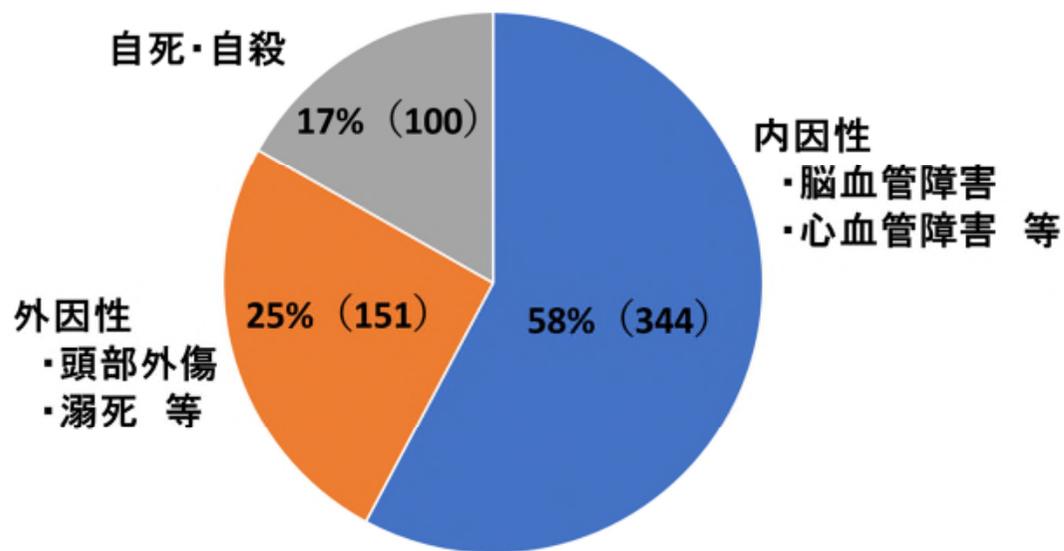


ドナーの背景（死因別分類・年齢分布）

- ・ これまでの臓器提供者数は2,434名
- ・ 死因別分類では、内因性症例が58%、外因性症例が25%、自死・自殺が17%
- ・ 年齢分布では、20歳未満のドナーが全体の約8%を占める

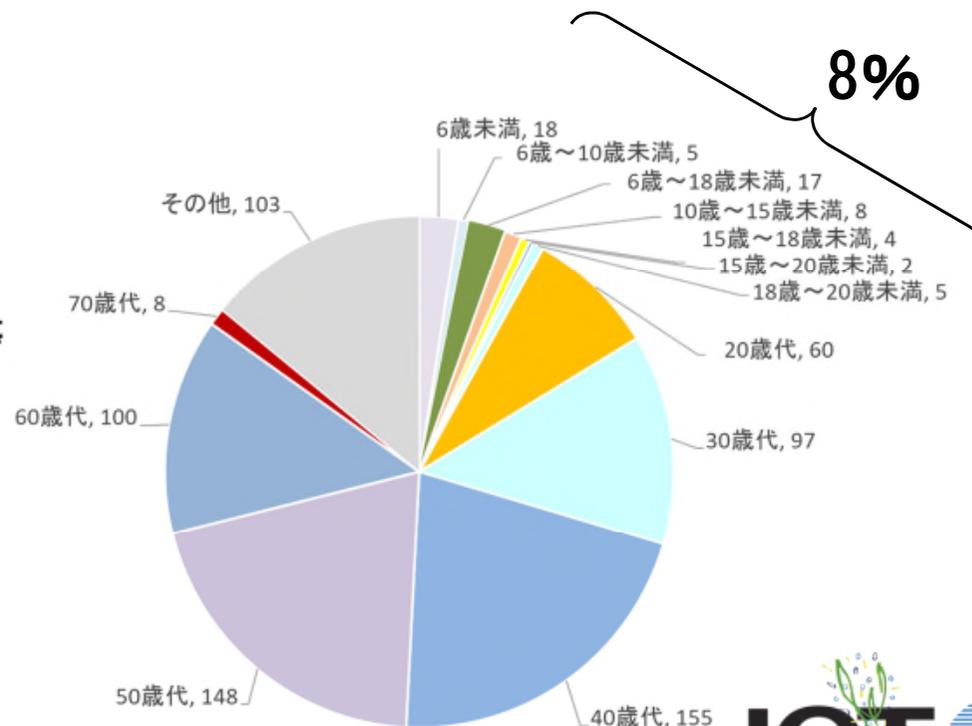
【臓器提供症例の死因別分類】

(2010. 7. 17~2020. 3. 31 N=595)

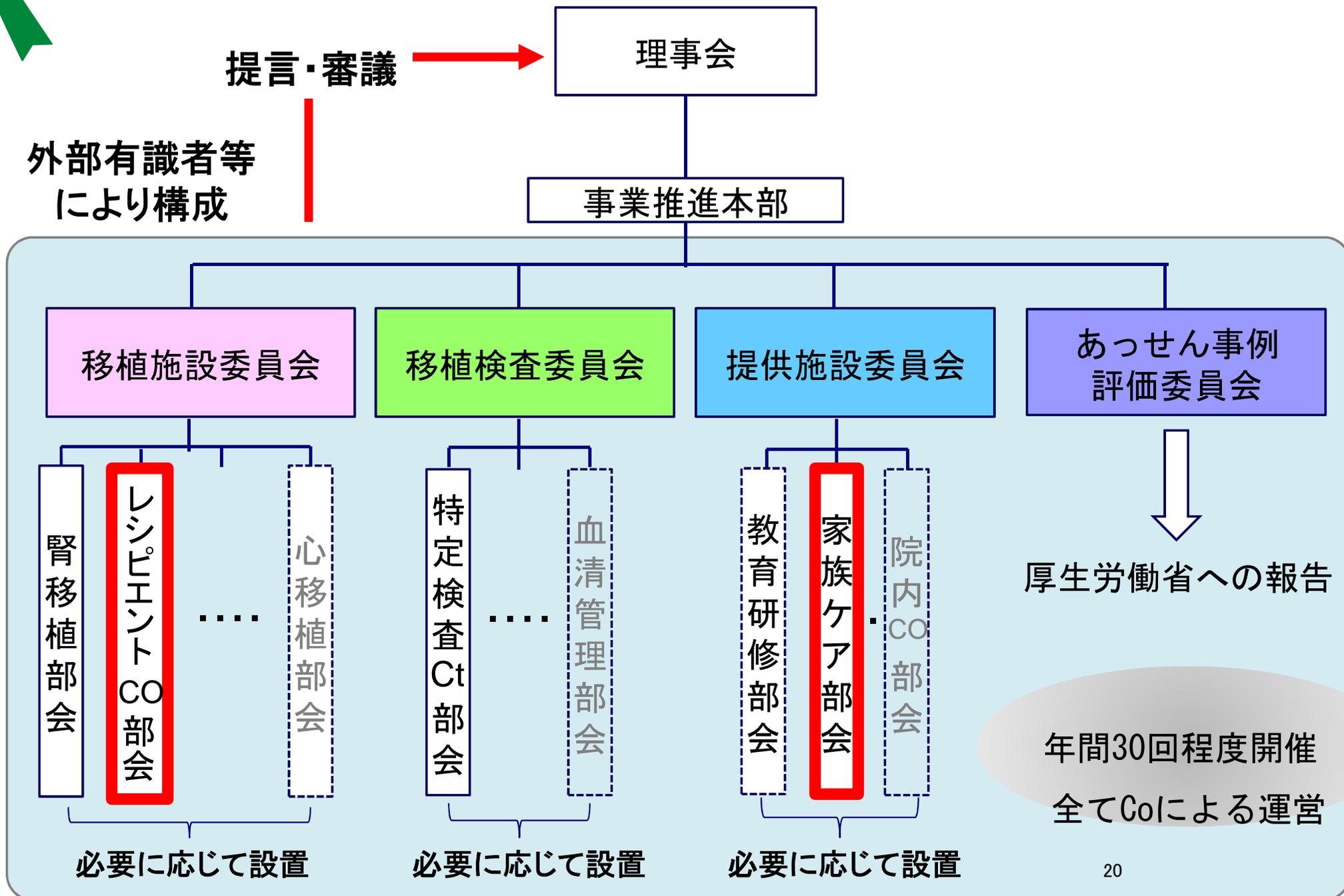


【ドナーの年齢別内訳】

(1997年10月16日~ 2020年12月31日、提供730件)



現場の声を反映した体制整備





これまでの家族ケアに関する取り組み

家族ケアに相当すると思われる支援業務体制



レシピエントの経過報告	サンクスレター受け渡し	ドナーファミリーの集い	ドナーファミリー専用ダイヤル・E-Mail
課題	課題	課題	課題
<ul style="list-style-type: none"> 報告時期の多様化 移植施設との連携 ケアサポートの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 比率の向上 普及啓発 ドナーへの影響 	<ul style="list-style-type: none"> 目的、意義の再考 DF多様性への対応 地域性への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 利用率の改善 普及啓発 次への展開策

- 提供施設委員会 家族ケア部会
- 移植施設委員会 レシピエントCo部会



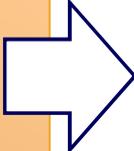
評価・検証
新たな取り組み
新規事業の提言 等





家族ケアに必要な「基本方針」

【対象別カテゴリー】

- 1) 内因性症例
 - 2) 外因性症例
 - 3) 自殺症例
 - 4) 小児提供症例
 - 5) 臓器未提供症例
- 

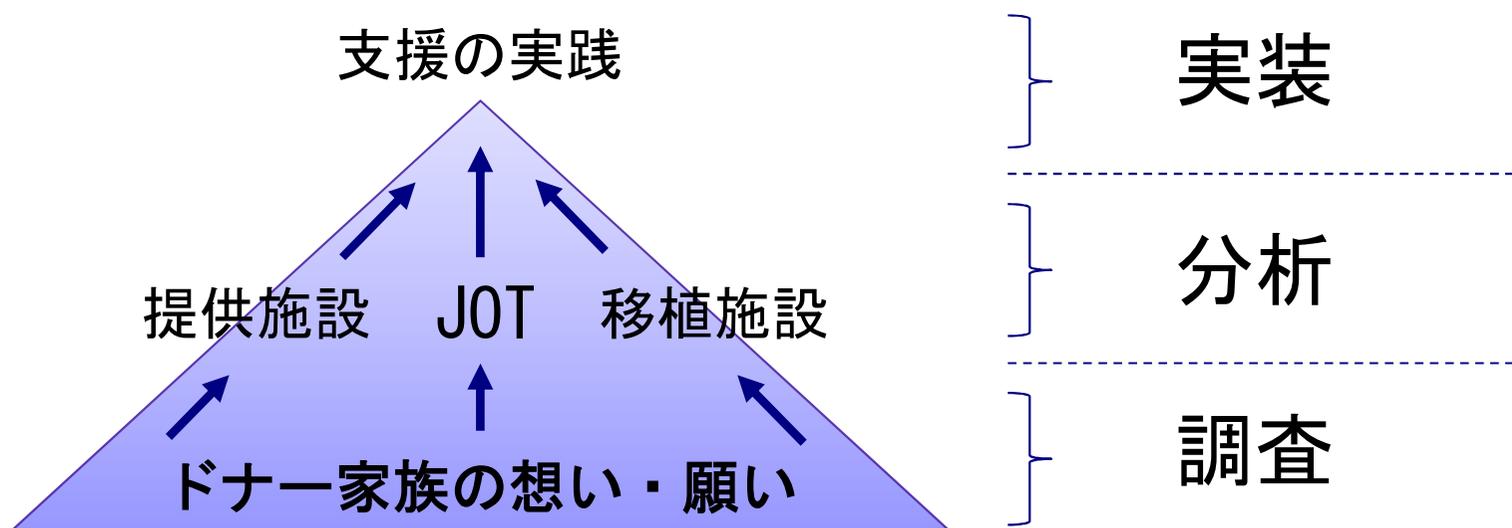
- ・ ご遺族に対する意識調査の実施
- ・ 提供前後、経時的心理状態の分析
- ・ カテゴリー別の課題やニーズの抽出
- ・ コーディネーションの質の評価
- ・ 家族ケアの在り方の明確化
- ・ Bereavement Risk Assessment Toolの開発

**evidence-based
coordinationの確立**



意識調査の目的

脳死下臓器提供にかかる様々な段階における心理的变化などを調査し、内在する課題やニーズを抽出・把握する事により、より質の高いドナー家族支援の実践をめざす。



2021年3月 意識調査の実施
4月 JOT HPにて集計結果公表

現在、死因別、小児提供事例等、JOTDBと照合し、詳細分析中



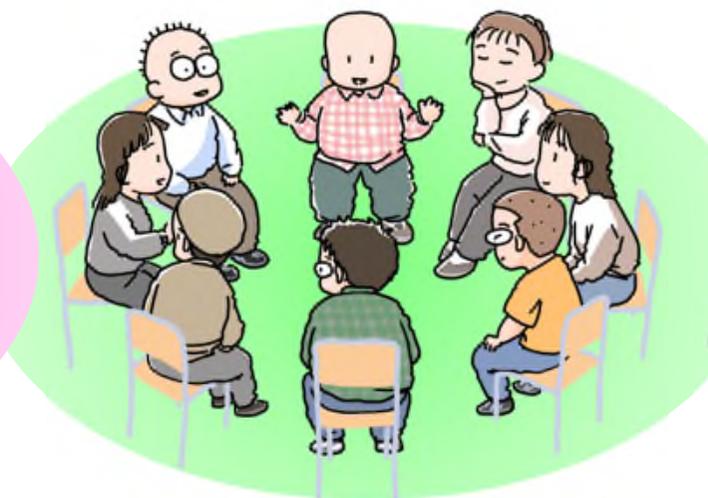
新たな家族ケアの方向性

1) サポートカフェ 「みどりのカフェ」



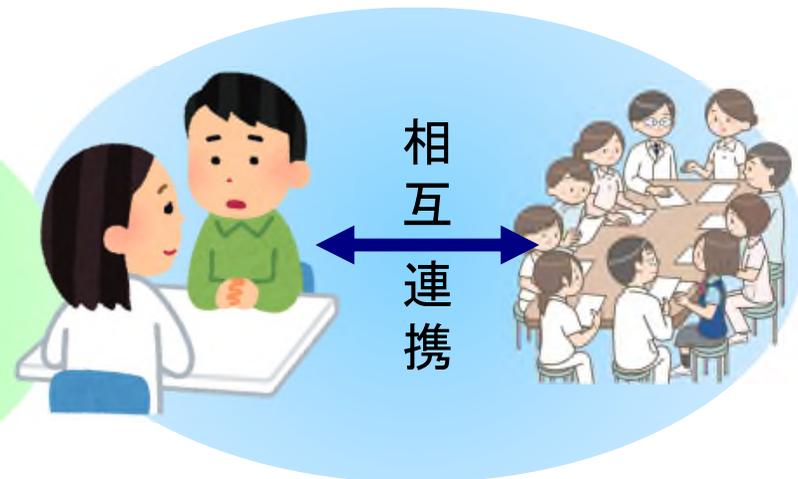
感情の起伏に応じた、いつでも立ち寄って話ができる環境の提供

2) カテゴリー別 サポートグループ



同じ境遇を共有出来る場の提供
臨床心理士等の配置

3) 臨床心理士による 現地介入と連携



小児領域・自死ケース等 特定事例における現地介入と**医療チーム**連携

「家族支援センターの設置」による重点化

※ 2021年度設置予定